



- 国見町 -

地域おこし協力隊インターンシップ 最終報告会

2023 / 11 / 29

Update "Freedom"



本報告会はFoundingBase社内向けに動画配信・録画をさせて頂いております。予めご了承ください。

配信に写られたくない方いらっしゃいましたら、岡野までお伝えください。

何卒よろしくお願ひ致します。



- はじめに
- 地域おこし協力隊インターン実施概要について
- インターン生より個人成果報告
- 総評

はじめに

Update “Freedom”



国見町企画調整課
大勝課長より ご挨拶

地域おこし協力隊インターン実施概要



Update “Freedom”

■ 期間

- ・ 2023年11月16日(木)～2023年11月29日(水)

■ 開催場所

- ・ 国見町内

■ 業務内容

- ・ クニミノマドの運営に関すること
- ・ クニミノマドが実施するイベントに関すること
- ・ その他、地域おこし協力隊の活動に関すること



—企画の目的—

町の一次産業を活用して、関係人口を増やす

そのために、
関係人口を構築するプログラムの運営・企画をする。
その中で、今後、プログラムをどう改善していくか、
新しい価値提供の伸び代を模索する。



- 1 国見町は「知らないまち」
- 2 「地方創生」「地方で働く」への興味関心
- 3 貴重な2週間使ってここにいる

りんごの収穫体験会



農業体験会



ワーク・事業者訪問



国見町やクニミノマドの実際の活動や地域の状況、生活について具体的にイメージできる期間となった。



【地域活動】

- ・ 農業体験：三栗野むぎ農園様
- ・ りんごの収穫体験：阿部郁様
- ・ 事業者訪問
黒田果樹園様/Patisserie La 4区様
Gela319様/八巻大夢様 他
- ・ 産業振興課とのマイクロツーリズム企画の同行
- ・ エリアデザインラボ報告会の参加



これから発表する内容は

自分と向き合い

地域と向き合い

国見町と向き合った

10日間の「軌跡」と「集大成」です。

ただの大学生ではなく、地方創生の一翼を担う
地域おこし協力隊のインターン生からの提案
として聞いて頂けると幸いです。

地域おこし協力隊インターン生より成果報告

Update “Freedom”



■ 自己紹介と国見町への印象の変化（Good・More）

■ 自身のインターンを通じた目標設定と結果

■ 2週間の活動の概要とそこでの気づきや改善点

■ 今後のクニミノマドの事業や方針提案

└ 事業を遂行するにあたってどのように人を集めることができるか

└ そしてどのように関係人口になるか

└ 知らないまちでどのようり組みが必要になるか

■本インターンに参加した理由

一次産業を軸としたまちづくりに興味があり、実際に訪れて学びたいと思ったからです。

大学時代、農家の後継者問題やフードロスに関する問題を勉強したり活動をしたため、

国見町で農家さんと直接的なコミュニケーションをすることや現場での仕事をすることに魅力を感じ、参加しました。

氏名 渡邊 夏鈴

ふりがな わたなべ かりん

出身地：東京都

桜 美 林 大 学
ビジネスマネジメント学群 4年





●初日の印象

- ・東京から2時間ちょっとで来れるため、意外にアクセスが良いと感じた。
- ・観光資源が道の駅くらいしか一般的になっていない。
- ・住宅が意外とあるが、町の人と会う機会が少ない。
- ・国見の農作物は桃とりんごくらいしか知らない。
- ・山に囲まれている。

●現在の印象

- ・果物以外にも、野菜やお米などの農家さんがいた。
- ・道の駅以外にも地元の飲食店やお店があった。
- ・地元の食材を活かしたレストランが多い。
- ・ビジネス訓練所の卒業生が実際に移住してくれている。
- ・宿泊施設が少ない。



● 目標設定

新しい自分を見つける。積極的に自分から行動をする。

- ・常に向上心を持ち、日毎の目標を設定し、フィードバックをもらいにいく。
- ・振り返りを毎日行い、やりっぱなしや忘れることを防止する。
- ・緊張している印象を出さず、自分から積極的に質問や会話を意識する。

国見町の良さを自分の言葉で考えてみる。

農家さんや町の方とのコミュニケーションを通して、自分のみならず、イベントに参加された方に対して、どうしたら国見町の魅力を伝えられるか、気付いてもらえるかを整理していく。

● 結果

新しい自分を見つけることができている。

多くの方から、国見町のこと、想いの部分までお話を聞くことができ、すごく新鮮で、刺激を受けた。このインターンを通して自分は、開拓していくことに楽しさを感じることも誰かに感動体験を与えることをし続けたい、など自分の大事にしていきたい部分を改めて考えることができ、見つけることができた。

生産者と消費者、双方に感動体験を与えることができた。

りんごの収穫体験を通して、参加者に対しては収穫だけではなく新しいりんごの魅力や直接農家さんに感謝を伝える場となった。農家さん(阿部さん)に対しては感謝を伝えるだけではなく、形に残るもので伝えることができた。

<活動概要①>



●りんごが出来上がるまでの1年間を紙芝居形式で説明した。子供にとっても大人にとっても、食育に繋がった。

●食べ比べだけではなく、触った違いやレシピの紹介など、普段何気なく食べているりんごを改めて知るきっかけになった。

●参加者から感想、想いを書いてもらい、生産者と消費者を繋ぐ、形に残るメッセージカードを、阿部さんにプレゼントした。

総評:とても充実した、学びのあるアウトプットができた。また新しいインプットができた。

主にりんごの収穫体験時の参加者の笑顔やアンケート、阿部さんからのコメントで、状態目標の「美味しいだけで終わるのではなく、学びがある感想をもらう」や「また参加したいと思ってもらう会にする」が達成できた。

また自分自身も、阿部さんから収穫過程や農家の現状を知ることによって沢山手間や作業があることを学びがあった。



<活動概要②>



● 空き家の整備を行った。
お風呂場やキッチン、寝室の清掃や障子の張り替えなど、お客様が宿泊できる状態に整えた。



● 農泊体験の佐久間さんご家族の宿泊受け入れ準備や国見産の料理などでおもてなしをした。

総評:お客様目線で思考する

1から空き家を整備していく中で、ただ掃除をしたり整えたりするのではなく、お客様がどうやったら充実した宿泊ができるかを考えることができた。また、お客様の特徴を考えて、それに合った整備をすることを意識した。



Out Put

- ・りんごの収穫体験
- ・空き家の整備、農泊体験の受け入れ
- ・農家さんとのコミュニケーション(阿部さん、三栗野さん、八巻さん)
- ・マイクロツーリズムの街歩きツアー同行

GOOD

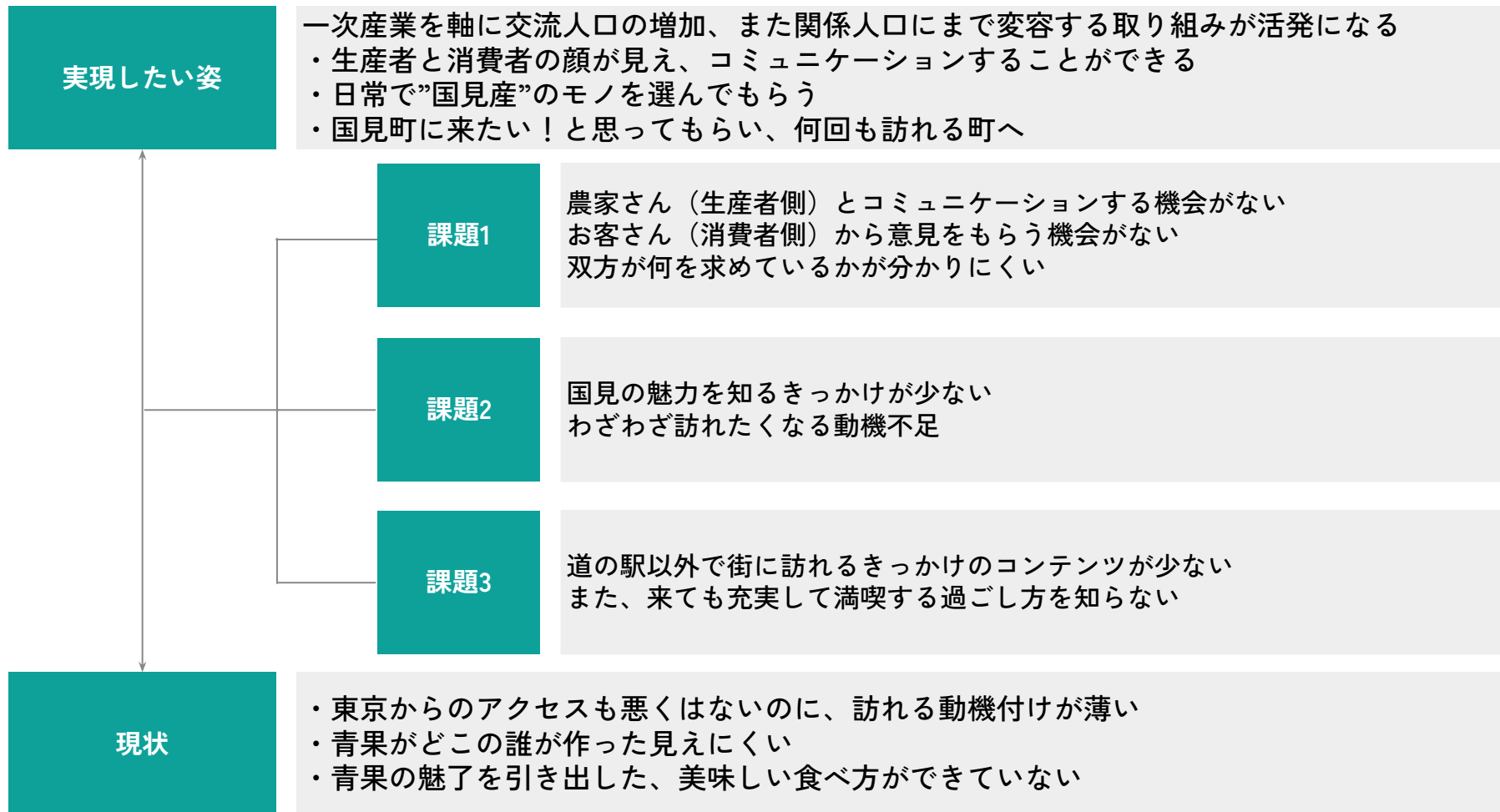
- ・りんごの収穫体験の参加者は、過去に収穫体験やイベントに参加したことがある方がほとんどだったが、普段と違う内容(紙芝居や想いのカードプレゼントなど)を盛り込むことができた。
- ・生産者である阿部さんに形に残るもので感謝を伝えられた。
- ・目的や状態目標を決めてから軸はずれずに最後まで走り切ることができた。
- ・業務スケジュール通りに作業をすることができた。
- ・参加される方は子供が多かったため、紙芝居にふりがなを振ったり、絵を書いたりして、お客様の視点で、立場になって考えられることができた。
- ・参加者1人1人とお話し、子供ともコミュニケーションを取って楽しくすることができた。
- ・一方的ではなく質問をしたり参加者を巻き込みながら進めることができた。
- ・阿部さんも巻き込んで会を進めていくことができて。

MORE

- ・疑問点や質問の際、ただ聞くだけで、どこに着目しての質問か、どういった背景で質問するのかまで伝えることができなかった。
- ・メンバーの動き方を具体的に共有できず、当日もサポートを任せっきりになってしまった。
- ・目的や目標を具体的に決めずに中身の内容の部分をどんどん進めてしまった。言語化させて設定を最初していなかった。
- ・タイムスケジュールにおける臨機応変な対応不足。



クニミノマドの事業・方針提案



本事業では、実現したい姿と現状の差分として浮かび上がる
 課題 1～3 に対応する新たな体験価値創出を目指す



<提案>

手作りキットボックスのサブスク販売



ビジョン	食材を最高に美味しく最後まで食べ、実際に国見町を訪れる。関係人口の増加
テーマ	手作りキットボックスのサブスク販売。そこに付随し会員限定イベント開催による、関係人口並びに交流人口構築
ターゲット	首都圏に住む、お子さんがいるご家族



<p>外部環境 世の中の流行など</p>	<p>内部環境 国見町ならではの強み</p>	<p>事業内容 地域ならではの事業コンテンツの創生</p>
<p>野菜ボックスなど直地直送通販急増 食品ロスによる環境負荷</p>	<p>オーナー制度や農家さん自身でボックス販売を行っている</p>	<p>①手作りキットボックスのサブスク販売</p>
<p>都心部からでも有機野菜や無農薬野菜などの鮮度が高い青果を購入できる通販の利用者が急増。しかし、美味しさの引き出し方、食べ方が分からない消費者も多数。 また、地球温暖化が危機的状況である現代社会において、食品ロスやフードロスも原因の1つである。家庭からロスが出る主な理由は、『過剰除去』『直接廃棄』『食べ残し』がある。</p>	<p>現在クニミノマドのオーナー制度で、桃やりんごのお届け、またふるさと納税も実施し、関係人口にアプローチしている。 農家さん自身も、食べチョクに出品したりし、町外の人にも野菜や果物を届けている。</p> 	<p>国見鍋、国見カレー、国見アップルパイなど、国見産の食材を使って、作って食べられるキットボックスの販売。美味しい食べ方や切り方を紹介し、料理が苦手な人でも、このボックスを購入することで、1つ1つ 無駄なく食材を召し上がることができる。</p> 

1

手作りキットボックスのサブスク販売

国見町で収穫された野菜や果物、お米などを使った、手作りキットボックスをサブスクリプションで販売。

鍋やカレーを始めとした食事キットや、アップルパイやプリンなどのスイーツキットなど、**季節に合わせて、手軽に国見料理**が作ることができる。

ターゲットは首都圏に住む、お子さんがいるご家族。

普段忙しくて、料理に割く時間があまりなかったり、食材を活かした調理ができなかったり。

また近年フードロスを始めとした地球温暖化対策としても、皮の部分まで無駄なく楽しむことを目的としている。



※四半期に一度アンケートを実施予定

2

国見町味覚周遊ツアー開催

会員限定の、国見味覚周遊ツアーを開催予定。
実際に国見を訪れて、**間接的に食べていた農家さんと直接あつたり、収穫体験**をしたりする。

また、国見の食材を使ったレストランやカフェを紹介し、新しい国見の魅力、楽しみ方を知っていただく機会を提供。
ツアー毎に、国見ならではの食に関するお土産をプレゼントしたり、収穫体験や座談会などイベント内容も随時変更して開催する。

国見町・クニミノマドの未来

- ・手作りキットボックスにより、食から国見町のことを知ってもらう
- ・生産者と消費者、双方のコミュニケーションを取れる機会
- ・実際に訪れて、国見町の魅力を知ってもらう

ご静聴ありがとうございました。 🍎



質疑応答

Update “Freedom”

日本インターンに参加した理由

国見町の農業を通したまちづくりを学びたく参加しました。

大学時代に農家さんの作物に対する想いに「自分は消費者として何も知らなかった」と衝撃を受け、日本の食と農業に興味を持ちました。



片岡 俊人

かたおか しゅんと

出身地：千葉県

早稲田大学
文化構想学部



●初日の印象

- ・柿やりんごの木がたくさんある
- ・自分と同世代の人を見ない
- ・友達と訪れたくなるような場所が少ない

●現在の印象

- ・想いを持って活動する素敵な飲食店がある
 - 👉 Trattoria da Martinoさん、Gela 319さんなど
- ・農家さんそれぞれに魅力があり、一次産業のまちとしての力強さを感じる
 - 👉 りんご、柿、野菜、お米など全てで共通している
- ・道の駅には県外からの人も多く来る



● 目標設定

主体的にまちづくりに取り組めるようになる

👉 今まで農業とまちづくりに興味はあっても、それに対して行動をすることはなかった。

● 結果

自ら企画をする経験ができた

👉 目標を設定し、現状を具体的に調べ、イベントで達成したいことを明確に定めるといったプロセスを通して、自らアイデアを出して企画をする経験ができた

企画から実行まで一貫して自分で行うことで次につながる学びを得た

👉 農業体験では企画から準備をして、当日自ら参加者さんにイベントをするという一連の経験をした。自ら実践したからこそ次につながるたくさんの課題がでた。



<活動概要① 農業体験の実施>

春菊の収穫体験

👉子どもと親と一緒に野菜を収穫する

採れたて野菜の味噌汁作り

👉事前に農家さんと話す中で自家製の味噌汁を作っていると知った。農家さんのことを知ったりし食について考える機会になると思って体験にした

農家さんと参加者さんの交流

👉作った味噌汁を食べながら農業や野菜の話をして、農家さんのファンが増える時間となった。

👉子ども達は自分でとった春菊をお代わりして何度も食べていた



企画したことが実際に参加者さんに届くということの喜びと難しさを感じた
「子どもが野菜を好きになってくれて嬉しかった」との声があった
ただ、タイムスケジュール通りに行かないことも多かった

<活動概要② 農泊体験>

空き家の整備

👉 宿泊するお客様にどんな経験をしてほしいか考えながら進めた

国見町の野菜や豆腐を使った鍋を提供

👉 それだけではなく、国見町のみこも茶やお菓子も提供した

農泊体験MAPの作成

👉 農泊体験で提供したお菓子屋さんや野菜を使う農家さんなどの SNSアカウントやECサイトを載せた国見町のMAPを作成した



一貫してどうしたら国見町の魅力が最大限伝わるか考えられた
飲み物 1つ出すにも、国見町を伝える方法はないか考えた



Out Put

- ・ 農業体験
- ・ 空き家の整備、農泊体験の受け入れ
- ・ 収穫体験のサポート

GOOD

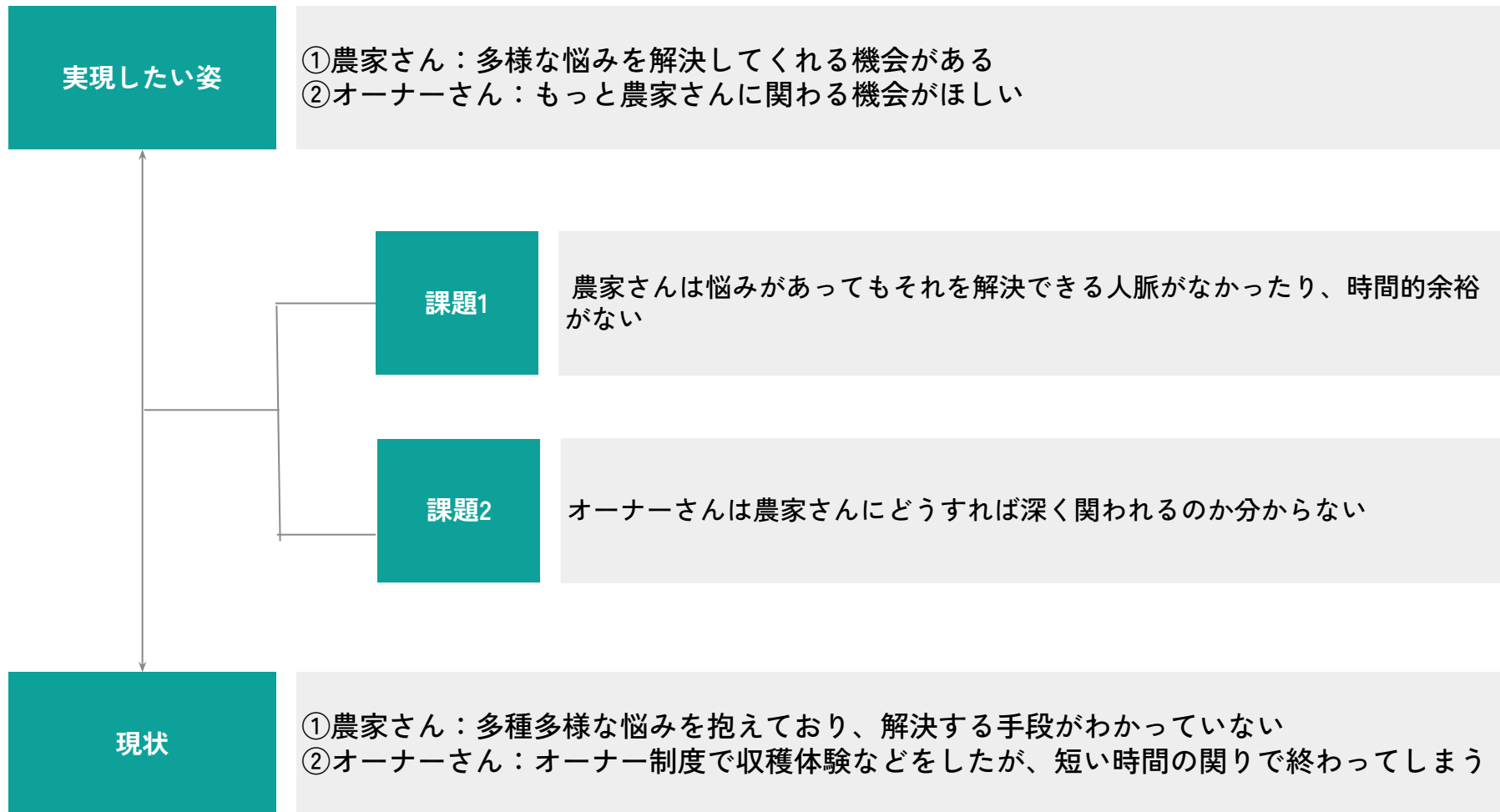
- ・ イベントのあとも国見町に関わるようになってほしいという視点で活動出来た
 - 👉 イベントだけで終わらせないように、国見町の農家やお菓子屋さんを訪れてもらうためのMAPの作成した
- ・ イベント後に振り返りを行って次のイベントで活かした
 - 👉 農業体験でできなかったことを振り返り、収穫体験で実践した

MORE

- ・ コンテンツ内容を詰めすぎて実施できないことがあった。
 - 👉 限られた時間の中で伝えたいことに優先順位をつけることが必要だった
- ・ メンバーとの連携が不十分だった
 - 👉 自分のことばかりで、サポートメンバーとの事前確認が足りなかった



クニミノマドの事業・方針提案



本事業では、実現したい姿と現状の差分として浮かび上がる
課題 1～3 に対応する新たな体験価値創出を目指す

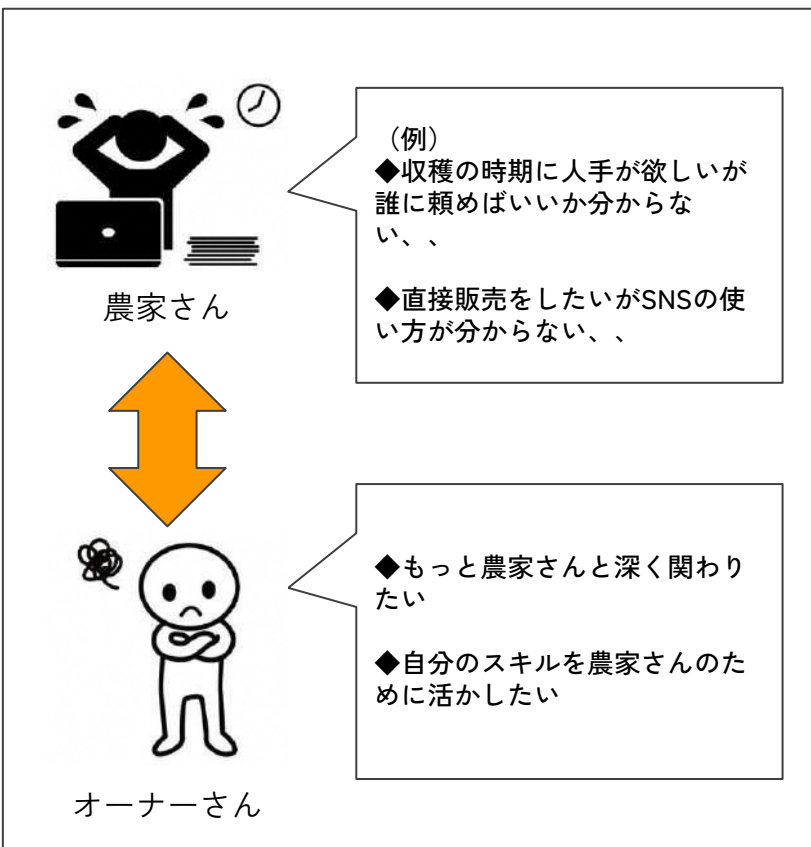
<提案>

農家さんとオーナーさんをより深くつなぐ
「みんなのお手伝い制度」

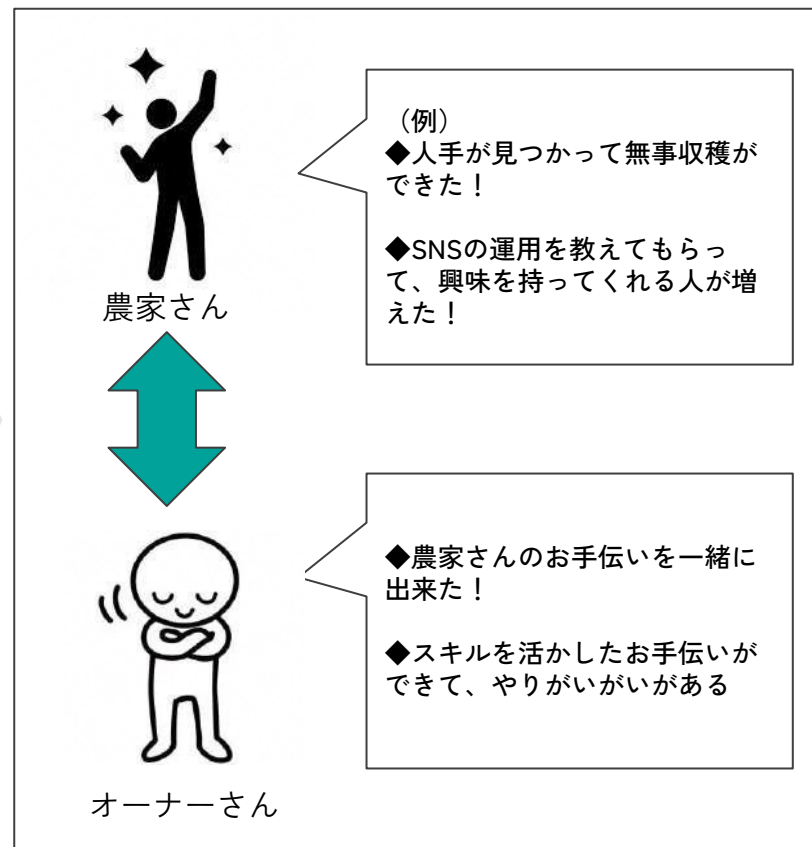





ビジョン	国見町の農業に多くの人に関わることで、農家さんが抱える多様な課題が解決される
テーマ	悩みを持つ農家さんと意欲のあるオーナーさんが繋がる「みんなのお手伝い制度」

Before



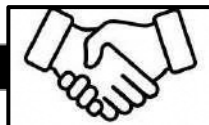
After



外部環境 世の中の流行など	内部環境 国見町ならではの強み	事業内容 地域ならではの事業コンテンツの創生																		
<p>副業をする人の増加</p>	<p>農家さん1人1人に魅力がある</p>	<p>みんなのお手伝い制度</p>																		
<p>ソフトバンクやヤフーなど大手企業が副業を解禁している。 副業をする人は10年間で4割増えている。</p> <p>地方副業 「好きな地域のためにスキルを活かした」「移住はしたいがすぐに仕事はやめたくない」</p>  <table border="1"> <caption>副業者数と比率の推移 (2002-2022)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>副業者数 (万人)</th> <th>副業者比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2002</td> <td>250</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>2007</td> <td>260</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>240</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>270</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>340</td> <td>5.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2023 第一生命研究所)</p>	年	副業者数 (万人)	副業者比率 (%)	2002	250	4.0	2007	260	4.0	2012	240	3.5	2017	270	4.0	2022	340	5.5	<p>話した農家さん1人1人に魅力があった。実際、イベントの参加者さんでは農家さんのファンになる人が多かった。</p> 	<p>クミノマドが農家さんの悩みを聞き、お手伝い出来るオーナーさんと結びつける。</p> <p>◎クミノマド 多くのオーナーさん、農家さんとつながりがある</p> <div data-bbox="1313 892 1845 1285" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p>～募集方法～ オーナーさんとクミノマドで作る「お手伝いFacebook グループ」を開設！ ・お手伝いがあるときはグループに投稿する。</p>  </div>
年	副業者数 (万人)	副業者比率 (%)																		
2002	250	4.0																		
2007	260	4.0																		
2012	240	3.5																		
2017	270	4.0																		
2022	340	5.5																		

クニミノマド

「SNSの運用をお手伝いしてくれる人いませんか？」

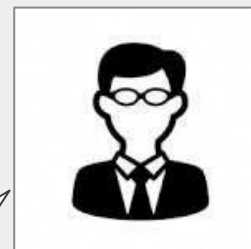


農家さんA

直接買ってくれるお客さんを増やしたいが、SNSを使っていないので農園を知ってくれる人も少ない

農家さんはとても良い人だった。自分にできることがあれば手伝いたい！

オーナー制度参加者



福島市内で
広報として勤務

Bさん



一緒にInstagramアカウントを立ち上げる。
効果的な写真の上げ方も聞き、
少しずつ農園に興味を持つ人が増えた。



「みんなのお手伝い制度」から国見町の一次産業の未来を考える

みんなのお手伝い制度

SNSアカウントの運営、収穫、梱包の人手不足など
農家さん1人1人の小さな問題をオーナーと一緒に解決していく。



新たな関係人口

農業の問題を農家さんだけでなく、多様な人が関わって
自分のスキルを活かしながら解決する人の流れができる。



稼げる農業の実現

人手不足の解消、販路拡大、六次化などのまちとしての問題が解決されることによって
国見町で「稼げる農業」を実現できる



ご静聴ありがとうございました！

質疑応答

Update “Freedom”

おわりに

Update “Freedom”